

第2回 がんゲノム医療に関する調査

Topics

- ✓ 遺伝子パネル検査の保険適応取得後6ヶ月時点において、遺伝子パネル検査を実施したことがあると回答した医師は34%、そのうち**保険診療にて実施した医師は29%**であった。採用率・使用経験率ともに、がんゲノム認定施設（中核拠点／拠点／連携病院）にて浸透が進んでいた。
- ✓ 包括的ゲノムプロファイリング（以下、CGP）を目的として遺伝子パネル検査を実施し、なんらかの治療に結び付いた患者割合は27%であった。ただし「治療薬が見つかって処方しなかった」「臨床試験があったが参加しなかった」などの患者も一定数いることが確認でき、そもそも治療薬が見つからなかった／検査失敗などの患者も多く見られた。
- ✓ がんゲノム医療に関する懸念点としては7月調査時(保険適応取得後2ヶ月)から変わらず「患者説明」が上位であり、「治療につながらない可能性」「遺伝性腫瘍」などを**どう説明し納得を得るのが医師にとってネック**であることがうかがえた。欲しい情報についても**「基礎知識」「検査フロー・注意点」などパネル検査に関する基本情報**を求める声が半数であり、ゲノム医療に関する情報面についても未だ十分ではないと考える医師が多い様子が見受けられた。

調査背景・目的

- ✓ 2019年6月に遺伝子パネル検査が保険適応を取得し、本格的にがんゲノム医療がスタートした。
- ✓ 保険適応取得後半年時点における遺伝子パネル検査の浸透状況や医師が抱える課題、さらに今後どのようにゲノム医療が浸透していくのかを継続的に把握していくために調査を行った。

調査概要

調査方法 : インターネット調査（全国）
 使用パネル : プラメド保有医師パネル（弊社子会社）
 調査期間 : 2019年11月18日～29日
 対象 : 100床以上の施設に勤務しており、直近1年間に固形がん患者5名*以上に対して抗がん剤治療を実施した医師
 *小児科医の場合は1名以上
 有効回答数 :

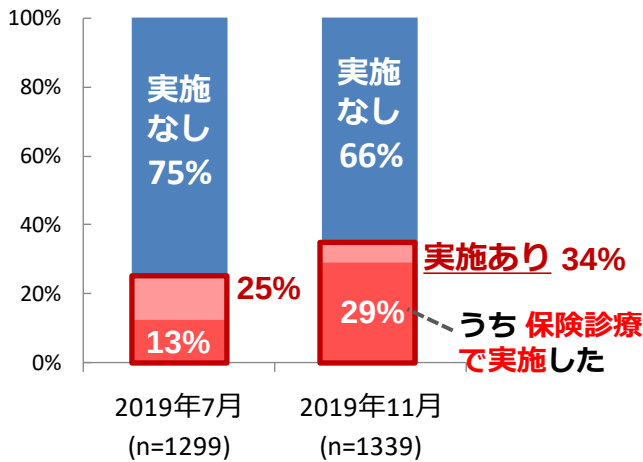
TOTAL	がんゲノム医療 中核拠点病院 ・拠点病院	がんゲノム医療 連携病院	左記以外の がん拠点病院	がん拠点病院 以外
1339s	287s	308s	237s	507s

調査結果 ※一部抜粋

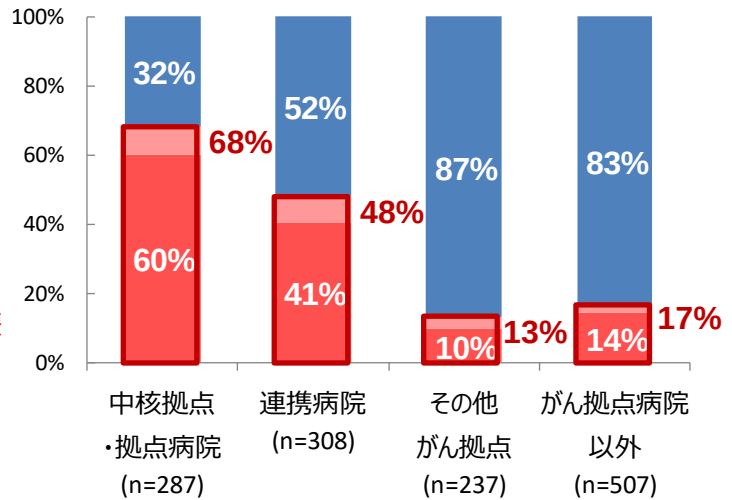
遺伝子パネル検査実施有無

Q. 先生は直近1年間にNGS等による遺伝子パネル検査を実施したことはありますか。

<回答医全体 時系列>



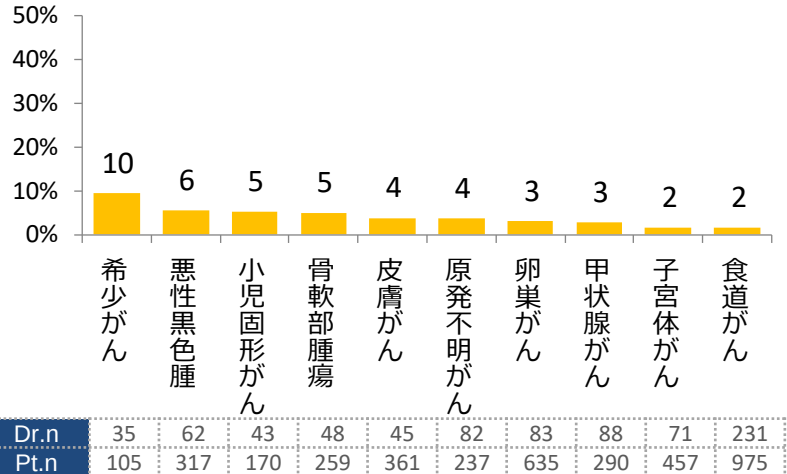
<がんゲノム医療施設別>



CGP目的・保険診療 遺伝子パネル検査実施患者割合 (TOP10抜粋)

Q. 先生が直近1年間に、保険診療にて、CGP：包括的ゲノムプロファイリングを主な目的として遺伝子パネル検査を実施した患者さんについて、がん種別にお知らせください。

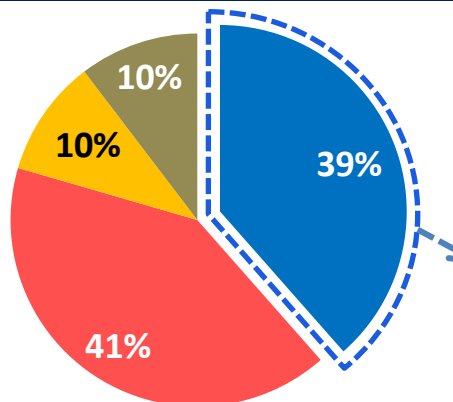
※「各がん種のCGP検査実施患者数」÷「各がん種の抗がん剤治療実施患者数」として算出



遺伝子パネル検査の結果【n=167】

Q. CGPを目的として保険診療にて遺伝子パネル検査を実施した患者さんについて、検査結果別の患者数をお知らせください。

<回答：保険診療にてCGP実施あり>



★ 本データは同時期に各諸施設から公表されたデータよりやや高ブレしている点に注意。本調査の回答医は施設重複を含むことや、「成功例」であるが故に医師の意識・記憶に残りやすいことなどが背景にあると推察される。

“治療薬が見つかった”その後の治療内訳【n=167】

保険適応のある薬剤が見つかり、処方した	: 24%
保険適応のある薬剤が見つかったが、処方しなかった	: 6%
保険外の薬剤が見つかり、処方した	: 3%
保険外の薬剤が見つかったが、処方しなかった	: 2%
組み入れ可能な臨床試験が見つかり、参加した	: 2%
組み入れ可能な臨床試験が見つかったが、参加しなかった	: 0.4%

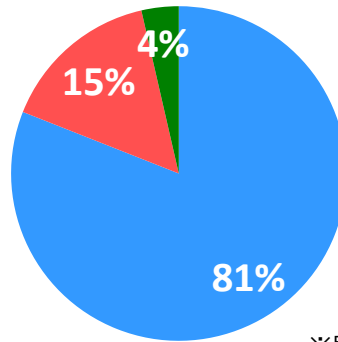
- 治療薬が見つかった★ (適応外含む)
- 治療薬が見つからなかった
- 検査結果がうまく出なかった
- まだ結果待ち
- その他

既存CDxとの使い分け 肺がんEGFR検査【n=344】

*EGFR遺伝子検査をオーダーした患者を100とした患者割合

Q. 最近3ヶ月間に新規に治療を開始した切除不能・進行再発 非小細胞肺がん患者さんに対する初回治療前の遺伝子検査について、その内訳をお知らせください。

<回答：肺がん治療医>

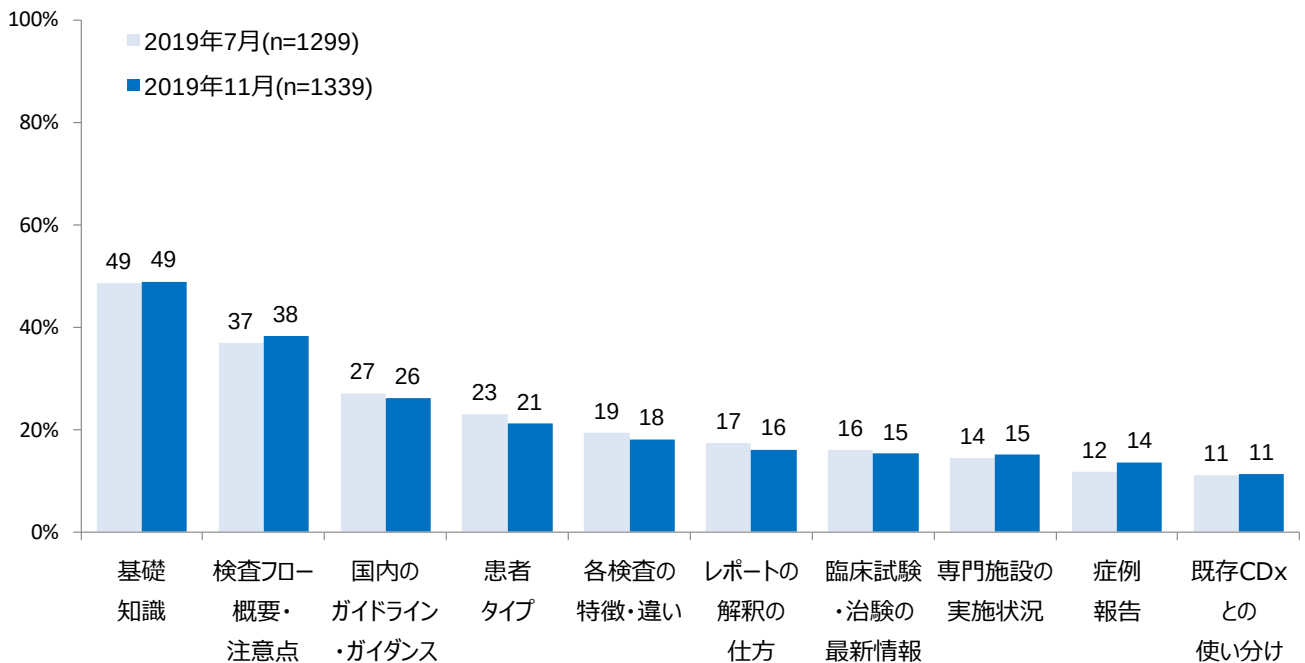


■ 既存CDxのみ
■ パネル検査のみ
■ 既存CDx+パネル検査

※肺がん(ALK)、乳がん(BRCA1/2)、卵巣がん(BRCA1/2)、大腸がん(KRAS/NRAS)、悪性黒色腫(BRAF)、固形がん(MSI) も聴取

ゲノム医療に関して欲しい情報 (TOP10抜粋)

Q. がんゲノム医療・遺伝子パネル検査に関して欲しいと思う情報をお知らせください。



主な情報入手経路 (TOP5抜粋) 【n=1399】

Q. 先生は、主にどのようなところからがんゲノム医療・パネル検査に関する情報を得ることが多いですか。

・医療情報サイト（m3.com、CareNetなど）	33%
・製薬メーカー主催の講演会・セミナー（会場）	32%
・学会	30%
・製薬メーカー担当者（面談、メール含む）	28%
・同僚の医師	21%

・メーカー主催のWEBセミナー(18%)、各パネル検査の専門サイト(18%)、院内勉強会(17%) などが続いた。

考察

- ✓ がん治療の均てん化が全国で進められる一方で、がんゲノム医療に関しては集約化の傾向が見え始めていた。遺伝カウンセリング等の高い専門性を必要とするサポート体制の整備やエキスパートパネルなどの点から、ある程度の集約化が現実的と考えられるものの、それらの施設への患者アクセスとスムーズな紹介システムなども併せて整備していく必要があると考えられる。がんゲノム認定施設ではない施設における対象患者のスクリーニング方法や患者説明、その後のがんゲノム認定施設への紹介、さらには検査実施後の治療アクセスに懸念の残る地方施設への浸透など課題は多く、今後の動向に着目していきたい。
- ✓ また、コンパニオン診断を目的とした検査については、8割以上を既存CDxが占めていた。検査費用、検査期間、手順、そもそものパネル検査に関する知識の少なさなどが背景にあると考えられるが、検体取得が容易ではないがん種では、少ない検体量で複数のドライバー遺伝子を検査できるなどメリットも挙げられる。今後、基本的な情報とともに、正しく遺伝子パネル検査のメリット・デメリットがどちらも広く普及していくことに期待したい。

調査項目 ※一部抜粋

浸透度	■ ゲノム医療・パネル検査 認知度(全体) ■ パネル別 採用・使用経験有無
実態把握	■ がん種別 遺伝子パネル検査実施患者数（保険診療／保険診療外） ✓ CDx／CGP目的別、パネル検査別、実施タイミング別 ■ 検査に要する期間 ■ 既存CDxとパネル検査の使い分け ✓ 肺がん、乳がん、卵巣がん、大腸がん、悪性黒色腫、固形がん(MSI検査)
マインド把握	■ 今後の遺伝子パネル検査実施意向 ■ がんゲノム医療に対する懸念点
情報入手	■ がんゲノム医療に関する情報入手経路 ■ がんゲノム医療に関して欲しい情報

★第3回医師調査を企画（2020年6月頃実査予定）



データ詳細についてはお気軽にお問合せください。

「遺伝子検査をよくやってる先生は何科？」「施設間の違いはある？」「ターゲット医師の評価は？」 etc...

➤ ローデータ＋集計データ 180万円（税別）

※ターゲット医師のマッチングや、詳細分析、アウトプット作成等は別途ご相談ください。

オンコロジー領域の調査は、インテージヘルスケアへ！

本調査に関する
お問い合わせ

www.intage-healthcare.co.jp
 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6 御茶ノ水ソラシティ13階 電話：03-5294-8393（会社代表）
 メディカル・ソリューション部 オンコロジー領域専門グループ
 メール：ant-onc@intage.com
 担当：安達（あだち）・森田（もりた）